



中学校	数学	1～3年
「カレンダーの秘密」～文字式の導入や活用、数学的な考え方の育成に		
<p>カレンダーなど、ある一定のきまりで数が並んでいる「数表」には、興味深い様々な数学的「秘密」が隠されている。例えば、次のカレンダーで、</p> <ol style="list-style-type: none"> 正方形の周上の4つの数（2×2 正方形）の間にきまりがないかを考える。<＊「帰納的な考え」>（例えば、対角線上の数を加えると等しい、かけると差が7など） ○これらのきまりが、他の2×2 正方形の場合にも当てはまるかどうかを確認する。 次に、これらのきまりがすべての場合にもいえるのかどうか<＊「一般化の考え」>、その理由を論理的に考える。<＊「演繹的な考え」> ○学年に応じて（小学校でも可）、言葉で説明したり、文字を用いて説明したりする。 さらに、これらのきまりが3×3正方形や長方形、平行四辺形などの場合にも当てはまるのか、また、別のきまりがないかどうかを考える。<＊「類推の考え」「発展的な考え」> ○別のきまりとして、例えば、3×3正方形で周上の数の和が真ん中の数の8倍になっている、など。 [*印は数学的な考え方] <p>この「カレンダーの秘密」は特に目新しいものではないが、ねらいや発達段階、育てたい数学的な考え方などに応じて授業での活用ができる。</p>		

